



念仏申す身

誓願寺前々住職 岡本泰雄

「教えを聞いてお念仏申すようになれば、どうなりますか」

私はこの質問が一番苦手である。欲も起こさなくなる、腹も立てなくなるし、愚痴もこぼさなくなりますよとはいわれぬ。金も儲かります、病氣も治りやすとも答えられない。

私もおかげさまで念仏申す身にさせていただいた。されど、欲も起こり通しだし、腹も立てるし、愚痴もこぼす、病氣にもなれば、金も儲からない。

「お念仏申す身になれば、なんとかなる筈だ」と、誰しも一応考えることである。念仏の教えを聞いている人たちの中にも、なんとかなる、なんとかなると考えながら、聞いている人もあるだろう。ところがいくら聞いてみても何ともならぬ、しまいにはなんともならぬなら聞いても無駄だと考えている人もあるかも知れぬ。お念仏申す身になれば、どうなるかということは、念仏申す身になれば生活が変わってくる、何か良いことが起こってくるかと考えているわけである。

生活が変わるとか変わらなとかを言う前に「お念仏申す身になる」とはどういうことであろうか。果たして自分自身がお念仏申す身になっているのであろうか。もう少しつつこんでいうと、生活が変わる、勿論良い生活に変わるといことが目的になっていて、お念仏申す身になるということの問題にしていけないのではないだろうか。生活がよくなるためだけであれば、なにも念仏によらなくてもよい。

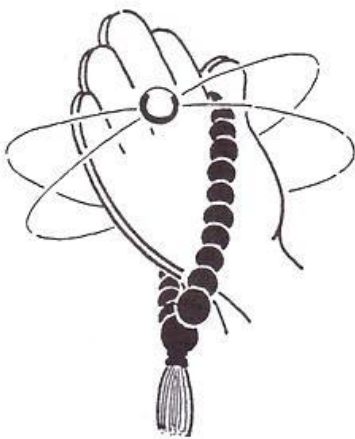
「念仏申す身になれば・・・」と、念仏申す身となつた後の利益を求めめるのではない。念仏申す身となること、最大の幸福なのである。それは何故であろうか。念仏申す身になるといことは、迷いの目を覚ま

しめられ、摂取の光明に包まれている自分と自覚せられ、やがて安養の浄土に生まれる身となるからである。つまり現在の自己を脱却して、絶大の世界に生きる身となるのである。そして若し、念仏に遇い得なかつたら、更に深い迷いをつづけねばならなかつたであろうに。既にお先まつくらの歩みではない。光につつまれ、永遠の世界へ前進である。悲しみも苦しきもみんな、如来のお慈悲を味わう素材となる。悲しい時は泣くがよい、苦しい時は叫べばよい、嬉しいときは笑うがよい。そのまんなまがお慈悲の光の中なのである。

念仏申す身になることは、心の大転換である。生まれ変わるといってよいであろう。たしかにそうだ。こちらから向こうに進んでいたという心が破られて、向こうから来るまことの光をいただく身になるのである。

煩惱に狂わされているわれらに、どうして真実の信を起こすことができようか。信するところも念仏申すことも、すべて如来のおてだてよりなさしめられるものであつて、何ひとつとしてわがちからで得られたものではないのである。

(昭和三十九年九月発行誓願寺しんらん同人第三十三号より抜粋)



春季彼岸会法要のご案内

暑さ寒さも彼岸まで。早いもので春のお彼岸を迎えます。きたる三月二十七日（日）、誓願寺本堂にて春の彼岸会法要、並びに三月の祥月命日合同法要を行います。どうぞ皆さま、ご家族一同お誘い合わせの上、お参りください。お待ち申し上げております。

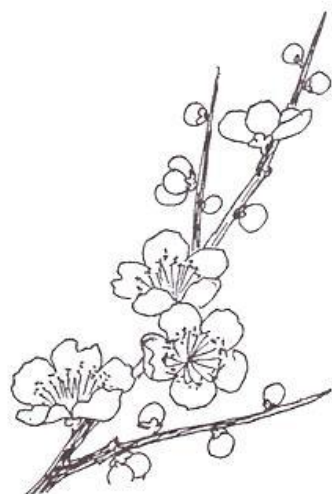
平成二十八年 三月二十七日（日曜日）

誓願寺本堂にて

午前十時より お勤め・ご法話

講師 元ホノルル別院・輪番 川路 広美師

なお、ご自宅やお寺で戸別のお参りをご希望の方は連絡ください。彼岸参り週間は、三月十七日（木）より二十三日（水）までです。



義父の死

パハラ本願寺 岡本信之

五月五日、パハラのお寺の庭には、鯉のぼりが元氣よく青空に泳いでいました。その日、私の妻、本子の父親が日本で亡くなっていたのです。私たちは六月十六日に、私の父から手紙を受け取るまで、義父の死を知りませんでした。父からの手紙に、「実は今日までお知らせしなかったのは、ちょうど出産前であったため、本子さんの身体を心配して、しばらく知らせないほうがよからうという事になり、お知らせしませんでした。すでに心の用意をしておられたことと思いますが、本子さんのお父さまが去る五月五日に亡くなりました。人の世は愛別離苦の世界です。必ず別れていかねばならないのです。このどうしようもない迷いの悲しみを見通して、大悲の光は私たちを照らして下さるのです。お父さまも今は如来の抱かれてお浄土の人となられています。お念仏申すところに、如来はそしてお父さまはいらっしゃるのです。お念仏申していきましよう。あなたが元氣で、力強く、お念仏とともに、生き抜いて、本当の仕合せな日暮をすることこそ、お父さんもお母さんも一番およろこびになることでしょう。嬉しい時も、悲しい時も、お念仏申しましよう……」。

本子はその手紙を読み終わるや否や、その場に泣き崩れました。

長女ユキは五月二十六日、無事生まれました。

七年前に母親を亡くし、今また父親を失ったのです。昨年九月、義父の容態が悪いとの知らせで帰国して義父をお見舞いしました。

その後、だんだん回復しているというので安心しておりました。父の日には、何かおいしいものでも買って上げてくださいと送金もしたのですが、もうその時は亡くなっておられたのです。本子の姉から送金のお礼と、お父さんは元氣にしているから心配しないで、元氣な赤ちゃんを産

むようにと手紙を頂いたのは六月九日でした。私は泣きじゃくる妻に対して「しつかりして、頑張つてよ」としか言葉をかけてあげることができません。涙も流さぬ自分が冷たい薄情な人間に思えていまましく情けない気持ちでいっぱいでした。

父から手紙を受け取って十日が過ぎました。その間、二人して父の手紙を何回も何回も読みました。私はお念仏に自分の力のいたらなさをいやというほど思い知らせ、本子はお念仏とともに悲しみから力強く立ち上がり、赤ちゃんと一才三ヶ月になる長男の世話にてんてこ舞いしています。

(昭和五十年八月発行、しんらん同人第一二五号より抜粋)

ふるさとの山寺

ハワイ 岡本本子

父が健在だったころ、お盆やお彼岸が近くなると、いつも一緒にお墓のおそうじに行きました。山寺で大きな木々に囲まれているので、落ち葉よせが大変でした。二人で一生懸命きれいにしてお線香をあげる。父の初盆のお勤めをしながら、私はそうじをしている父の大きな後姿を思い出していました。

母の死から七年、今年父の初盆を送りました。父が亡くなった時、私の友人から、「貴女はお寺に嫁いだのだから、強くこの悲しみを乗り越えてくれるでしょう」という励ましの手紙をもらいました。私は友人の発想の仕方に苦笑してしまいました。が、父の死から四カ月たった今、私はかなり冷静な気持ちでいます。母の時とは違うのは七年間の歳月と、現在の私には、夫や子どもがいるという環境の変化によるところが大きいのかもしれません。なかでも一番大きな要因は、この七年の間に、御法を聞くご縁に会わせていただいたおかげによるのではないかと思う

のです。

お浄土に仏となって、生まれた父と母がいる。死によって、無になつてしまうのではなくて、永遠がある。南無阿弥陀仏のお念仏によって、私は両親と対話ができる。なんと心強いことでしょうか。真宗の教えについては、一にぎりほどの知識しかない私ですが、「南無阿弥陀仏を称えれば」というお言葉に力づけられています。

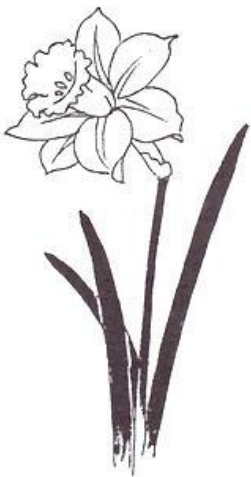
学生の頃「絶対」というものはありえないと論じ、論じながらも味わった頼りなさや寂しさ。そうして今、私は一八〇度の対岸で、絶対を信じ、その中に身をゆだねる心地よさを感じ始めています。

大いなるものの力にひかれゆく、我が足あとのおぼつかなしや今年もふるさとの山寺は、落ち葉にうずもれているでしょうか。

合掌

(昭和五十年十一月しんらん同人第二百二十八号)

*私が住職代務を務めている誓願寺の寺報「しんらん同人」を整理していたら、私たちがハワイにいた時に書いた記事がいくつか載っていました。家内の父親が亡くなった時のことを書いたものです。懐かしさのあまりいくつか皆様にも読んでいただきたいと思ひ掲載させていただきました。昭和五十年ですから今から四十二年前にさかのぼります。わたしは二十六才でした。今はもう父も母も兄も姉も皆お浄土です。



釈尚文 独り言

誓願寺副住職 古賀尚之

誓願寺のお手伝いをするべく、住み慣れた福岡から家内ともども上京して三年が過ぎ、ようやく自分の進む方向が見えて来た思いが致します。私に求められておりました「お寺の経済的基盤の安定。」も、少し形作られ、三月末の決算収支も数年前と比較して改善されてまいりました。もちろん、お寺の底地購入のための二十年ローンの返済は残っています。が・・・それ以上に、自前の土地を確保出来たという大きな安堵感が、法務の活力となっています。

お同行にとって最大関心事の「開法道場としての、誓願寺発展。」は、まだまだ多くの課題を抱えた状況ですが、初代・故岡本泰雄住職による誓願寺建立の原点を忘れない限り、今後必ず達成できるものと考えます。こうした中、誓願寺住職代務であり大恩寺住職である岡本信之師からそろそろ住職に就任しないかというお話をいただき、責任役員並びに門徒総代各位とも相談した結果、住職就任の諸手続きを進めることとなりました。

ご門徒の皆様方やお世話になっております方々へのご説明やご承諾は十分とは申せませんが、前住が亡くなって四ヶ月、これも節目と思ひ決断致した次第です。

言うまでもなく、誓願寺は皆様方のお寺です。また、まだまだ発展の途上にあるお寺でもあります。

皆様方の温かいお見守りの中、更なる充実を目指して進んで行きたいと考えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

三月ご法座のご案内

十三日(日) 午前十時	定例法座 高山秀嗣師
正午	医療相談 佐藤公彦先生
二十日(日) 午前十時	なかよしクラブ
	乳幼児から小学生まで
二十七日(日) 午前十時	彼岸会法座 川路広美師
	祥月命日合同法要

四月ご法座のご案内

十日(日) 午前十時	定例法座 岡本信之師
正午	医療相談 佐藤公彦先生
十七日(日) 午前十時	なかよしクラブ
	乳幼児から小学生まで
二十四日(日) 午後一時	定例法座 高田慈照師
	祥月命日合同法要

三重県津市・専念寺の加藤幸子師をお迎えし、婦人会追悼法要を九月十一日(日)開催いたすことが決まりました。

沖縄に観測史上初めての「雪」を降らせました今年の冬も過ぎ、活動の春を迎えます。今年の目標を確認しつつ、法務に励む所存です。